

● 文化芸術施設との連携企画

昨年10月には同時期にアーツ前橋で開催された岡本太郎企画展の開始に合わせ、ドキュメンタリー映画「太陽の塔」を上映しました。また現在は、開催中の企画展「闇に刻む光 アジアの木版画運動 1930s-2010s」に合わせてアジア映画を上映しています。今後、アーツ前橋だけでなく



市内の文化施設などと連携企画を行っていく予定です。



● 初の封切り&ロングラン上映の実施

昨年8月、本市在住の監督・飯塚俊男さんの映画「陸軍前橋飛行場」は、全国に先駆けて前橋シネマハウスが封切り館に。この作品は、連日満員となるほどの大盛況。通常上映終了後も反響が大きかったことから、約1カ月間のロングラン上映となりました。



● 監督や出演者による舞台あいさつ・トークショー

昨年7月、映画の出演者によるトークショーを初めて開催しました。その後も月に1、2作品で監督や出演者の舞台あいさつなどを実施。映画を楽しんでもらうだけでなく、関係者から裏話や解説などを直接聞ける機会を作っています。

日時 3月24日(日) 13時

● 青の帰り道
本市で撮影が行われた映画「青の帰り道」の上映と、終了後に原案者で元ものまねタレントの岡本麻里さんの舞台あいさつを行います。また、ポスターを先着でプレゼントします。

日時 3月23日(土) 11時55分

● 耳かきランデブー
本市出身のふくだみゆき監督が9割を市内で撮影した映画「耳かきランデブー」の上映と、終了後に監督の舞台あいさつを行います。

日時 3月16日(土) 10時

● 人生フルーツ
昨年、最も反響の大きかった映画「人生フルーツ」のアンコール上映と、終了後に伏原健之監督の舞台あいさつを行います。

開館1周年を記念して、次とおり監督や原案者の舞台あいさつを行います。当日前橋シネマハウスへ直接お越しください。詳しくは同館ホームページをご覧ください。



開館1周年記念舞台あいさつ

地域に寄り添った映画館へ
前橋シネマハウスでは市内在住の監督や俳優の映画の他、市内がロケ地となった映画やゆかりの映画などを積極的に上映しています。12月下旬から1月にかけては、本市在住の俳優が出演する映画を相次いで上映し、互いの舞台あいさつに参加するなど、同館ならではの試みに挑戦しました。

3月の上映作品

「えちてつ物語 わたし、故郷に帰ってきました。」「ペコロスの母に会いに行く」、「マダムのおかしな晩餐会」、「人生フルーツ」、「耳かきランデブー」、「青の帰り道」、「ドキュメンタリー映画 岡本太郎の沖縄」、「マシュー・ボーン IN CINEMA / シンデレラ」、「バハールの涙」

前橋シネマハウスが1周年 独自の取り組みで地元で愛される映画館へ

前橋プラザ元気21別館にある前橋シネマハウスは、3月17日(日)に開館1周年を迎えます。昨年12月には来場者数が1万人を突破。着実にファンを獲得しています。

☎ 前橋シネマハウス ☎027-212-9127

Interview

前橋シネマハウス支配人 日沼大樹さん

前橋シネマハウスの支配人にならないかと声を掛けてもらったのは、映画の製作や配給を手掛ける群馬共同映画社で働いていることがきっかけでした。畑違いの仕事に最初はとても悩みましたが、まちなかを文化発信の拠点にしたいという市の気持ちに共感しました。自分が好きな映画という文化をにぎわい創出に活用できること、そしてそれが映画界への貢献にもつながることが支配人になる決意を後押ししました。

今は好きな時に好きな場所で映画を見られる時代。でもやっぱり映画館で見ると違います。大きなスクリーン、整った音響設備、真っ暗になる劇場。何より不特定多数が同じ空間を共有することで生まれる空気感。こういうものをもっと多くの人に感じてもらいたいです。ここで上映するのはミニシアター作品だけでなく、他の映画館では上映が終了したヒット作品や前橋ゆかりの作品、私たちおすすめの作品も。見たいと思う作品があれば、ぜひここで一緒に楽しみましょう。